

自発性低下・うつ

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後ご本人、介護者の状態
1	家族に支援方法を伝えた ケース	自宅内は片付けや掃除が行き届いていない状態であり、手近にある夫の衣類を重ね着したり、下着も履いていない日があった。コタツに入ったまま食事をして、また寝るとい生活になり、体重が減少している。	居宅介護支援事業所	夫と2人暮らし。週2回のデイサービスに通う以外は、自宅のコタツで寝ていることが多い。衣類の交換ができていないが、自分で何でもできていると介助を拒否する。「薬に毒が入っている」と言って服薬しないため、血圧が不安定である。	家族と話し合った結果、家族が自宅の清掃を行い、生活スペースを確保するようにした。	浴室を清掃後、本人がお湯をためてお風呂に入った。夫も妻の面倒をみたり、子どもたちが継続してサポートをしている。
2	傾聴と対応を工夫した ケース	家族は認知症について理解して接することが出来ているが、本人が忘れてしまうことに対して、家族が言いすぎしてしまうところもある。	訪問看護ステーション 理学療法士	昔のことはかなり詳細に記憶しているが、短期記憶が著しく低下している。自らも短期記憶の低下について自覚があり、そのためにうつの症状がみられる。	日付はカレンダーを見る習慣が身につくように声掛けを行っていった。本人ができたことは一緒に喜び、家族の思いについては傾聴に努めた。日中寝てしまうことに対して、デイサービスを増やした。	カレンダーを見る習慣がついたことで本人が忘れてしまうことが減り、家族も言いすぎてしまうことが少なくなった。
3	傾聴と対応を工夫した ケース	本人から「帰ります」「妹に好き勝手やられてます」などの言葉が聞かれる。デイサービスのスタッフに対して、攻撃的になることもあった。	グループホーム 介護職	自分の事は自分ででき、スタッフの手伝いもしてくれる。穏やかに日々過ごしているが、帰宅願望や被害妄想が出ることもある。	「もう帰ります」と言うような発言には「そういえば桜がキレイでした。お花見にはよく行かれました？」などと、あえて全く違う話題に話を持っていくことで、気分の転換を図った。	話しかけによる気分転換により、暗い表情が笑顔になった。
4	傾聴と対応を工夫した ケース	「帰りたい」「お腹痛いから帰らせて」等の言葉が聞かれる。	デイサービス 介護職	お孫さん夫婦が主介護者となり、一緒に生活をしている。	隣に座って、まず何時に帰るのかを伝えた後に、本人の訴えを聴きながら話を広げて昔話などをした。	話をすることで安心し、帰る頃には「ありがとうね」という言葉が聞かれた。
5	サービスを活用して対応した ケース	意欲がない夫に対して妻が怒鳴ってしまうことがある。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	妻と2人暮らし。10年前から物忘れの症状が出現し、トイレに行ったことも忘れてしまう。日課の散歩はかかさず行っているが、妻は迷ってしまわないか心配している。	デイサービスと短時間デイサービス、ショートステイの利用を行い、夫婦それぞれの時間を作った。	本人は、デイサービスでは楽しく過ごしている。 妻は、病院へ行ったり、趣味活動を行い、自身の時間を持てるようになった。
6	サービスを活用して 対応したケース	整容（ひげそりなど）が行えておらず、失禁したままデイサービスに来所される。デイサービスでも自発的な活動がみられない。	デイサービス 介護職	高齢者世帯。片麻痺、意欲低下がある。	ケアマネジャーとの情報交換と家庭状況の聞き取りを行った。整容や排泄ケアに関しては、デイサービスで声掛けをして促していった。	整容への意識向上が見られ、介護者の負担軽減につながった。

自発性低下・うつ

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後ご本人、介護者の状態
7	サービスを活用して 対応したケース	ケア中、問いかけにも返答がない。 自発性がみられず、自らベッド上で動くことがない。	訪問看護ステーション 理学療法士	妻と息子さんと3人暮らし。入退院を繰り返す中で日常生活動作の低下がみられ、現在、日常生活動作はほぼ全介助の状態である。	ケア中に家族も交えて会話したり、本人の反応を見ながらケアを行った。 運動については、本人に聞きながら、無理のない範囲で実施をした。	話の内容によっては、本人の笑顔がみられた。 ベッド上での自発的な運動はないが、リハビリ時に出来る、出来ないなど簡単な返事をしてくれるようになった。
8	サービスを活用して 対応したケース	2年以上続けて介入していたが、徐々に活動性が低下している。リハビリ中も寝ていることが多い。	訪問看護ステーション 作業療法士	主介護者は娘さん。週3回デイサービス利用をしている。自発性はほぼなく、促しにより発語があったが、減少傾向である。手引き歩行はできるが、介護量が増大してきている。	屋外歩行を行うなど、活動を積極的に促した。	屋外歩行などの刺激を受けた後は、起きている時間が多くなった。